

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873900488
法人名	吉田興産有限会社
事業所名	グループホームさくら
所在地	愛媛県北宇和郡鬼北町大字内深田1067番地2
自己評価作成日	平成 24 年 12 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年1 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームさくらは、自然に囲まれており、桜やコスモス、紅葉等、季節感を肌で感じることが出来る場所にあります。また、グループホームは地域密着型サービスの1つであり、地域のニーズに対応できるよう、デイサービスも行っています。在宅の方がデイサービスを利用することで、入居者様と地域の住民が同じ空間でともに過ごすことができる環境を提供することができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境に立地している事業所の居室からは、田園や河川敷の桜並木、夏には風物詩のトロコ列車が見えるなど、季節の移り変わりを肌で感じることができる。管理者は職員一人ひとりの話を丁寧に聞く姿勢があり、職員から信頼されている。管理者をはじめ職員全員が、利用者に対して優しい声かけや対応に努めている。利用者の尊厳を大切に利用者本位のケアを行い、穏やかに楽しく生活できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームさくら

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 富永 正樹

評価完了日 平成 24 年 12 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 目のつくところに理念、目標を掲示し、日々確認しながら利用者様と関わっている。	
			(外部評価) 理念を「笑顔と思いやり」というわかりやすい言葉で表し、玄関やホールに掲示している。管理者をはじめ職員全員が共有し、笑顔と思いやりを持って相手の立場に立ったケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ホームで行事を行う際には、地域の方に参加していただいたり、こちらから出向いて行ったりしている。	
			(外部評価) 近くに小学校があり、節分や七夕など行事毎に児童の訪問がある。地域の方に自宅で採れた野菜を届けてもらうなど、日頃から交流がある。納涼祭には地域から100人以上の参加があり、事業所の一大イベントとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ボランティアの受入れや介護実習の受入れ等を積極的に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者様の様子やサービス提供情報等を報告している。また、ホーム内に入り利用者様との交流を深めたり、今後の行事の話し合い等も行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議では、事業所の活動状況や課題等を報告し、参加者との意見交換がされている。家族や利用者が参加しやすくなるような工夫を検討し、よりよい会議となるよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 研修等の情報提供や、定期的な介護保険状況報告を受けている。また、ホームの空き状況を報告することにより待機者の負担軽減に心がけている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、地域包括支援センター職員が参加しており利用者の相談をしたり、連携を深めている。運営についても報告し、相談が気軽にできる良好な関係を築いている。また、町が開催する研修等に積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ会議で身体拘束をしないケアについて話し合いを行ったりしている。安全上やむを得ない場合は、ご家族様に相談し理解のうえ許可を得ている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアを職員間で正しく理解するよう、スタッフ会議でも話し合いを行っている。言葉での拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応を心掛けている。日中は玄関の施錠をせず、音や目配りで安全確認し、利用者に寄り添いながら見守っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての研修の機会を設け、虐待防止の徹底を図っている。 身体的虐待のみに捉われないようなケアに取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部の研修会に参加したり、社内研修の機会を設けることで、周知を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書、重要事項説明書に添い説明している。不安や疑問点を尋ね質問にも回答している。 介護報酬改定の際には、説明を行い同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付の第三者機関を掲示したり、意見等を投函できる意見箱を設置している。 また、ご家族様面会時には要望等はないか、こちらから声かけするようにしている。	
			(外部評価) 利用者には日々のケアの中で、家族には面会時に意見や要望を聞くよう努めている。遠方の家族には毎月報告書を送付し、電話等でこまめに連絡をとるようにしている。出された意見等に対しては、迅速に対応するよう心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフ会議で意見、要望等を聴く機会をつくったり、気軽に要望等が出せるよう気づきの箱も設置している。	
			(外部評価) 毎月のスタッフ会議で、職員から意見や要望を聞くよう努めて、意見等がある場合は検討し対応している。管理者は職員の話丁寧聞く姿勢があり、働きやすいようシフトを組むなど配慮し、職員からも信頼が厚い。出された意見等は、施設長などを通じて反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の職員に適した勤務体制を整えたり、定期的に話し合う機会を設け希望等も聴いている。また、毎年目標を掲げ、振り返ることで日々の向上にもつなげている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内を掲示したり、ボランティアにも参加できるような勤務体制も整えている。資格取得の相談、向上へ努める。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他事業者の勉強会やイベントに参加をしたり、参加していただいたりと交流を図っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に見学していただいたり、入居前に本人様の要望等を把握することで、入居の際、生活しやすい環境配慮に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様の心身の状況等の把握をし、精神的緩和を図ることができるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族様等が今一番必要としているサービスの支援ができるよう話し合いを行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に過ごし、学び、支え合う関係が築いていけるよう心がけている。また、体調に合わせて家事等のお手伝いもしていただいている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には本人様の状態等を報告するとともに、月に1回状態報告書を作成し送付している。また、面会や外泊を自由に行え、ホームに宿泊できる環境も整えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 来訪することが難しい方は送迎をさせていただいたり、ホームに宿泊できる環境も整えている。また、大勢の方が面会に来られても、落ち着いて話しをすることができる場の提供も行っている。 (外部評価) 利用者が大切にしてきた馴染みの所に行けるよう支援している。地域の魚屋、パン屋等が移動販売に来てくれたり、紙芝居や楽器演奏の訪問ボランティアが頻回に訪れて、新たな馴染みの関係になっている。事業所には知人や家族が宿泊できる設備があり、遠方の方との関係が途切れないよう配慮がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 1人ひとりの性格や日々の体調を把握し、利用者様同士の関係がうまくいくように状況に応じて、話しの場に職員も入ったりしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院に伴い退居された方はオムツ購入の支援や、お見舞いにも行かせていただき、必要に応じて相談支援等を行い、すぐに関係が断ち切れることのないようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の行動や表情、会話のなかから思いや希望を把握するように努めている。 また、思いを上手に伝えることができない利用者様に対しては過去の生活歴や日々の関わりのなかで、思いを汲み取ることができるように努めている。	
			(外部評価) 日頃から、利用者一人ひとりに向き合って会話することに力を注ぎ、思いや希望を聞き取るよう努めている。聞き取りが困難な場合は、家族から情報を得たり、利用者の表情や動作から希望等を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族様等から過去の生活歴を聴き把握している。介護保険を利用されている方の場合、前事業所のワーカーやケアマネジャーからも情報提供をさせていただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1人ひとりの”できること” ”できていること” に焦点をあて、できない部分のみの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人様や家族様の要望に応じたプランの作成を行っている。担当者会議やモニタリングを行うことにより、現状に合った支援ができていくかの振り返りも行っている。	
			(外部評価) 利用者がより良く暮らしてもらうためにはどうしたらよいかを第一に考え、利用者や家族の意向を確認し、担当者を中心に話し合いを行い、介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行い評価を行っている。ミーティングでは全職員が意見を出し合うようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にファイルを作成し利用者様の様子やケアプランの実践内容等を記入している。 申し送り、記録の確認を行うことにより、情報の共有を図り、ケアプランの見直しにも役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) デイサービス、介護タクシーを行っている。遠方の病院には介護タクシーを利用することもできたり、退居され自宅に帰られた際には、希望に応じて引き続き、顔なじみのデイサービスを利用することができる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の学校からボランティアや交流会に来てくださったり、こちらから出向いて行ったりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前に本人様等と相談し、かかりつけ医を決めてい る。 個別に受診ノートを作成し、職員は目を通すようにし ている。ご家族様にも報告・相談を行っている。	
			(外部評価) 利用者と家族が希望するかかりつけ医の受診ができる よう支援している。協力医に変更する場合も柔軟に対 応している。専門医への受診は、家族の同行が困難な 場合は管理者が同行のうえ報告等を行い連携してい る。利用者が入院しても関係が途切れないよう、相談 や支援を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職員が定期的に看護記録を作成することで、情報の共 有を図っている。看護師が訪問した際には、利用者様 の健康管理や医療面での相談・助言を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時には職員が同行し、これからの治療方法、退 院してからの支援方法に関する情報の共有を行ってい る。 病院が行っている交流会にも参加し、情報交換を行 える環境も整っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に終末期の支援の在り方について話し合う機 会を設けたり、重度化がみられてきた際にはこれからの 支援の方法について本人様、家族様、職員、状況に応 じて医師も交えての相談も行っている。	
			(外部評価) 看取りについては、事業所の方針を利用者や家族に説 明している。重度化しても、安心して過ごしてもら えるよう、事業所としてできることなどをさらに整理 し、職員の意識のレベルアップや研修等を重ねて取 組む姿勢がある。	「看取りに関する指針」を整備しているが、まだ経験 がなく、今後、利用者や家族の希望に添えるよう、医 療との連携など支援体制について全職員でよく話し合 い、職員が不安を持つことなく終末期ケアに取り組む ことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 「AED」を設置し、使用方法の講習や、救急救命の仕方の研修も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練と月1回防火自主点検を実施している。見やすい場所に室内図を貼り、車いすが必要な方の居室には車いすのマークをつけ、緊急時、外部の方が援助をしてくださる際に、分かりやすいようにしている。 (外部評価) 避難訓練を年2回行い、うち1回は消防署に立ち会ってもらっている。事業所近くの地域住民が運営推進会議の参加者であるため協力を得やすい。住民参加の訓練や備蓄等にも配慮し、利用者が安全で安心な生活を送れるよう災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症という病気を全職員が正しく理解し、利用者様への声掛け、言葉づかいには気をつけるよう職員の意識向上を図っている。 (外部評価) 利用者の尊厳やプライバシーを損なうことのないよう、声かけや対応に配慮している。職員同士の会話の中でも、利用者に不快感を与えないよう細やかに注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 1つ1つの介助について職員本位で支援するのではなく、利用者様のペースに合わせた支援をすることにより、自己決定、希望表出を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 決まった時間に決まったことをするのではなく、その日その日の体調、1人ひとりのペースを大切にしながら、可能な限り希望に沿った支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時の着替えの際には、本人様に洋服を選んでいただくようにしている。 自己決定が難しい利用者様には、季節、環境に応じた洋服の選択を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 地域住民や運営推進委員の方から旬の食材を分けていただいている。採れたての野菜を利用者様に見ていただき、献立の相談をしたりしている。 また、1人ひとりが役割をもっておられ、下準備や台拭き、下膳等もされている。	
			(外部評価) 近所の方に頂いた野菜を使って、メニューは利用者と一緒に考えている。リビングには利用者が自由に使える専用の流し台があり、野菜洗いや食器洗いなどできる事を手伝っている。外食の企画もあり食事が利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1人ひとりに応じた食事量や食事形態での提供を行っている。 栄養バランスについては栄養士を配置している。アレルギーの方には別メニューを提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々の力や状態に応じて声かけ・見守り・介助等を行っている。 口腔内の清潔を保つことにより、嚥下機能の低下防止や食欲促進にもつなげている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表を活用することで、個人の排泄リズムの把握を行っている。また、排泄のサインも職員が把握することによりスムーズなトイレ誘導も行っている。 トイレには利用者様に分かりやすいような表示をしている。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表を用いて一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。おむつ使用者にはその人の状態に合った衛生用品を選んだり、夜間のみポータブルトイレを使用するなど、状態に合わせながら自立に向けた排泄支援が行われている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘の原因を追及するとともに、定期的な体操や乳製品の摂取、栄養士の食事管理等により自然排便を行っている。 自然排便が困難な方について服薬にて調整を行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴時には利用者様に入浴の確認を行っている。入浴を希望されない方については、時間帯や曜日をずらしたり、シャワー浴、部分浴等の対応を行っている。 好きな入浴剤を選んでいただくことで、楽しめる入浴も行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望に沿った入浴支援が行われている。リフトも備え付けてあり、利用者の状態に合わせて安全に入浴できるように配慮している。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫し、無理のない心地よい入浴ができるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 入眠時間を決めるのではなく、利用者様のリズムに合わせた入眠を行っている。夜間眠れない利用者様には無理に寝てもらおうのではなく、ソファでくつろいでいただいたり、ティータイム等の時間を設けている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋一覧表を作成しており、服薬の変更時や受診時には毎回職員が記入し、全職員が目を通すようにしている。 副作用等がみられた際には、病院受診や連絡調整を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様に応じた役割、楽しみ（カラオケ、園芸、工作、家事等）をもっていただけるよう支援している。また、昔の経験を活かし茶摘みや干し柿作ったりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者様の希望や体調、天候に合わせて外出支援を行っている。自宅の近所のコスモス畑や思い入れのある神社にドライブにでかけたり、その他、花見や紅葉、初詣等季節を感じる外出も行っている。	
			(外部評価) 玄関先の広い庭は外気浴には最適な場所で、散歩や買い物など日常的な外出を支援している。特に事業所周辺の散歩は、利用者が自然豊かな季節の移り変わりを感じることができる。利用者の希望を取り入れながら、家族にも参加してもらえるよう外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 1人ひとりが買い物バッグを持っており、受診の帰りにスーパーに寄ったり、自動販売機でジュースを買ったり等している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人様の希望に応じて電話をかけたり、手紙の用意を行っている。暑中見舞いや年賀状を送ったりもしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 花や作品等を展示し季節感を味わえるようにしている。リビングでは浪曲や演歌を流すことで、話しのネタになったり、歌を口ずさまれたりと共用空間の雰囲気づくりが行えている。</p> <p>(外部評価) 居間にはソファやダイニングテーブルがゆったりと配置され、車いすの利用者でも移動しやすいように広々とした空間が保たれている。広い窓からは自然な光が差し込み、壁にはお正月の書初めやちぎり絵、写真などが飾られている。利用者が居心地よく安心して過ごせる空間づくりがなされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングには数人で座れるソファやリクライニングチェア等を置いて、1人ひとりが自由に過ごせる場所の配慮をしている。リビングの横には和室もあり、横になりながら</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使われていた家具や思い出の品、ご家族様の写真等を飾られている。 荷物の運搬が困難な方は、こちらから出向きお手伝いをさせていただいている。</p> <p>(外部評価) ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けとなっている。利用者の使い慣れたタンスやテレビなど好みのものが持ち込まれ、家族写真を飾ったり利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手摺り、車いす対応トイレ等により自立に向けた生活が送れるよう支援している。 居室やトイレには分かりやすいような表示もしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873900488
法人名	吉田興産有限会社
事業所名	グループホームさくら
所在地	愛媛県北宇和郡鬼北町大字内深田1067番地2
自己評価作成日	平成 24 年 12 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年1 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームさくらは、自然に囲まれており、桜やコスモス、紅葉等、季節感を肌で感じることができる場所にあります。また、グループホームは地域密着型サービスの1つであり、地域のニーズに対応できるよう、デイサービスも行っています。在宅の方がデイサービスを利用することで、入居者様と地域の住民が同じ空間でともに過ごすことができる環境を提供することができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境に立地している事業所の居室からは、田園や河川敷の桜並木、夏には風物詩のトロコ列車が見えるなど、季節の移り変わりを肌で感じることができる。管理者は職員一人ひとりの話を丁寧に聞く姿勢があり、職員から信頼されている。管理者をはじめ職員全員が、利用者に対して優しい声かけや対応に努めている。利用者の尊厳を大切に利用者本位のケアを行い、穏やかに楽しく生活できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームさくら

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏名 富永 正樹

評価完了日 平成24年 12 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 目のつくところに理念、目標を掲示し、日々確認しながら利用者様と関わっている。	
			(外部評価) 理念を「笑顔と思いやり」というわかりやすい言葉で表し、玄関やホールに掲示している。管理者をはじめ職員全員が共有し、笑顔と思いやりを持って相手の立場に立ったケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ホームで行事を行う際には、地域の方に参加していただいたり、こちらから出向いて行ったりしている。	
			(外部評価) 近くに小学校があり、節分や七夕など行事毎に児童の訪問がある。地域の方に自宅で採れた野菜を届けてもらうなど、日頃から交流がある。納涼祭には地域から100人以上の参加があり、事業所の一大イベントとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ボランティアの受入れや介護実習の受入れ等を積極的に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者様の様子やサービス提供情報等を報告している。また、ホーム内に入り利用者様との交流を深めたり、今後の行事の話し合い等も行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議では、事業所の活動状況や課題等を報告し、参加者との意見交換がされている。家族や利用者が参加しやすくなるような工夫を検討し、よりよい会議となるよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 研修等の情報提供や、定期的な介護保険状況報告を受けている。また、ホームの空き状況を報告することにより待機者の負担軽減に心がけている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、地域包括支援センター職員が参加しており利用者の相談をしたり、連携を深めている。運営についても報告し、相談が気軽にできる良好な関係を築いている。また、町が開催する研修等に積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ会議で身体拘束をしないケアについて話し合いを行ったりしている。安全上やむを得ない場合は、ご家族様に相談し理解のうえ許可を得ている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアを職員間で正しく理解するよう、スタッフ会議でも話し合いを行っている。言葉での拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応を心掛けている。日中は玄関の施錠をせず、音や目配りで安全確認し、利用者に寄り添いながら見守っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての研修の機会を設け、虐待防止の徹底を図っている。 身体的虐待のみに捉われないようなケアに取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部の研修会に参加したり、社内研修の機会を設けることで、周知を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書、重要事項説明書に添い説明している。不安や疑問点を尋ね質問にも回答している。 介護報酬改定の際には、説明を行い同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付の第三者機関を掲示したり、意見等を投函できる意見箱を設置している。 また、ご家族様面会時には要望等はないか、こちらから声かけするようにしている。 (外部評価) 利用者には日々のケアの中で、家族には面会時に意見や要望を聞くよう努めている。遠方の家族には毎月報告書を送付し、電話等でこまめに連絡をとるようにしている。出された意見等に対しては、迅速に対応するよう心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフ会議で意見、要望等を聴く機会をつくったり、気軽に要望等が出せるよう気づきの箱も設置している。	
			(外部評価) 毎月のスタッフ会議で、職員から意見や要望を聞くよう努めて、意見等がある場合は検討し対応している。管理者は職員の話丁寧聞く姿勢があり、働きやすいようシフトを組むなど配慮し、職員からも信頼が厚い。出された意見等は、施設長などを通じて反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の職員に適した勤務体制を整えたり、定期的に話し合う機会を設け希望等も聴いている。また、毎年の目標を掲げ、振り返ることで日々の向上にもつなげている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内を掲示したり、ボランティアにも参加できるような勤務体制も整えている。資格取得の相談、向上へ努める。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他事業者の勉強会やイベントに参加をしたり、参加していただいたりと交流を図っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に見学していただいたり、入居前に本人様の要望等を把握することで、入居の際、生活しやすい環境配慮に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様の心身の状況等の把握をし、精神的緩和を図ることができるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族様等が今一番必要としているサービスの支援ができるよう話し合いを行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に過ごし、学び、支え合う関係が築いていけるよう心がけている。また、体調に合わせて家事等のお手伝いもしていただいている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には本人様の状態等を報告するとともに、月に1回状態報告書を作成し送付している。また、面会や外泊を自由に行え、ホームに宿泊できる環境も整えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 来訪することが難しい方は送迎をさせていただいたり、ホームに宿泊できる環境も整えている。また、大勢の方が面会に来られても、落ち着いて話しをすることができる場の提供も行っている。 (外部評価) 利用者が大切にしてきた馴染みの所に行けるよう支援している。地域の魚屋、パン屋等が移動販売に来てくれたり、紙芝居や楽器演奏の訪問ボランティアが頻回に訪れて、新たな馴染みの関係になっている。事業所には知人や家族が宿泊できる設備があり、遠方の方との関係が途切れないよう配慮がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 1人ひとりの性格や日々の体調を把握し、利用者様同士の関係がうまくいくように状況に応じて、話しの場に職員も入ったりしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院に伴い退居された方はオムツ購入の支援や、お見舞いにも行かせていただき、必要に応じて相談支援等を行い、すぐに関係が断ち切れることのないようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の行動や表情、会話のなかから思いや希望を把握するように努めている。 また、思いを上手に伝えることができない利用者様に対しては過去の生活歴や日々の関わりのなかで、思いを汲み取ることができるように努めている。	
			(外部評価) 日頃から、利用者一人ひとりに向き合って会話することに力を注ぎ、思いや希望を聞き取るよう努めている。聞き取りが困難な場合は、家族から情報を得たり、利用者の表情や動作から希望等を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族様等から過去の生活歴を聴き把握している。介護保険を利用されている方の場合、前事業所のワーカーやケアマネジャーからも情報提供をさせていただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1人ひとりの”できること” ”できていること” に焦点をあて、できない部分のみの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人様や家族様の要望に応じたプランの作成を行っている。担当者会議やモニタリングを行うことにより、現状に合った支援ができてきているかの振り返りも行っている。	
			(外部評価) 利用者がより良く暮らしてもらうためにはどうしたらよいかを第一に考え、利用者や家族の意向を確認し、担当者を中心に話し合いを行い、介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行い評価を行っている。ミーティングでは全職員が意見を出し合うようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にファイルを作成し利用者様の様子やケアプランの実践内容等を記入している。 申し送り、記録の確認を行うことにより、情報の共有を図り、ケアプランの見直しにも役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) デイサービス、介護タクシーを行っている。遠方の病院には介護タクシーを利用することもできたり、退居され自宅に帰られた際には、希望に応じて引き続き、顔なじみのデイサービスを利用することができる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の学校からボランティアや交流会に来てくださったり、こちらから出向いて行ったりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前に本人様等と相談し、かかりつけ医を決めてい る。 個別に受診ノートを作成し、職員は目を通すようにし ている。ご家族様にも報告・相談を行っている。	
			(外部評価) 利用者と家族が希望するかかりつけ医の受診ができる よう支援している。協力医に変更する場合も柔軟に対 応している。専門医への受診は、家族の同行が困難な 場合は管理者が同行のうえ報告等を行い連携してい る。利用者が入院しても関係が途切れないよう、相談 や支援を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職員が定期的に看護記録を作成することで、情報の共 有を図っている。看護師が訪問した際には、利用者様 の健康管理や医療面での相談・助言を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時には職員が同行し、これからの治療方法、退 院してからの支援方法に関する情報の共有を行っている。 病院が行っている交流会にも参加し、情報交換を行え る環境も整っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に終末期の支援の在り方について話し合う機会 を設けたり、重度化がみられてきた際にはこれからの 支援の方法について本人様、家族様、職員、状況に応 じて医師も交えての相談も行っている。	「看取りに関する指針」を整備しているが、まだ経験 がなく、今後、利用者や家族の希望に添えるよう、医 療との連携など支援体制について全職員でよく話し合 い、職員が不安を持つことなく終末期ケアに取り組む ことを期待したい。
			(外部評価) 看取りについては、事業所の方針を利用者や家族に説 明している。重度化しても、安心して過ごしてもらえ るよう、事業所としてできることなどをさらに整理 し、職員の意識のレベルアップや研修等を重ねて取り 組む姿勢がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 「AED」を設置し、使用方法の講習や、救急救命の仕方の研修も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練と月1回防火自主点検を実施している。見やすい場所に室内図を貼り、車いすが必要な方の居室には車いすのマークをつけ、緊急時、外部の方が援助をしてくださる際に、分かりやすいようにしている。 (外部評価) 避難訓練を年2回行い、うち1回は消防署に立ち会ってもらっている。事業所近くの地域住民が運営推進会議の参加者であるため協力を得やすい。住民参加の訓練や備蓄等にも配慮し、利用者が安全で安心な生活を送れるよう災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症という病気を全職員が正しく理解し、利用者様への声掛け、言葉づかいには気をつけるよう職員の意識向上を図っている。 (外部評価) 利用者の尊厳やプライバシーを損なうことのないよう、声かけや対応に配慮している。職員同士の会話の中でも、利用者に不快感を与えないよう細やかに注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 1つ1つの介助について職員本位で支援するのではなく、利用者様のペースに合わせた支援をすることにより、自己決定、希望表出を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 決まった時間に決まったことをするのではなく、その日その日の体調、1人ひとりのペースを大切にしながら、可能な限り希望に沿った支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時の着替えの際には、本人様に洋服を選んでいただくようにしている。 自己決定が難しい利用者様には、季節、環境に応じた洋服の選択を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 地域住民や運営推進委員の方から旬の食材を分けていただいている。採れたての野菜を利用者様に見ていただき、献立の相談をしたりしている。 また、1人ひとりが役割をもっておられ、下準備や台拭き、下膳等もされている。	
			(外部評価) 近所の方に頂いた野菜を使って、メニューは利用者と一緒に考えている。リビングには利用者が自由に使える専用の流し台があり、野菜洗いや食器洗いなどできる事を手伝っている。外食の企画もあり食事が利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1人ひとりに応じた食事量や食事形態での提供を行っている。 栄養バランスについては栄養士を配置している。アレルギーの方には別メニューを提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々の力や状態に応じて声かけ・見守り・介助等を行っている。 口腔内の清潔を保つことにより、嚥下機能の低下防止や食欲促進にもつなげている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表を活用することで、個人の排泄リズムの把握を行っている。また、排泄のサインも職員が把握することによりスムーズなトイレ誘導も行っている。トイレには利用者様に分かりやすいような表示をしている。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表を用いて一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。おむつ使用者にはその人の状態に合った衛生用品を選んだり、夜間のみポータブルトイレを使用するなど、状態に合わせながら自立に向けた排泄支援が行われている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘の原因を追及するとともに、定期的な体操や乳製品の摂取、栄養士の食事管理等により自然排便を行っている。自然排便が困難な方について服薬にて調整を行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴時には利用者様に入浴の確認を行っている。入浴を希望されない方については、時間帯や曜日をずらしたり、シャワー浴、部分浴等の対応を行っている。好きな入浴剤を選んでいただくことで、楽しめる入浴も行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望に沿った入浴支援が行われている。リフトも備え付けてあり、利用者の状態に合わせて安全に入浴できるように配慮している。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫し、無理のない心地よい入浴ができるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 入眠時間を決めるのではなく、利用者様のリズムに合わせた入眠を行っている。夜間眠れない利用者様には無理に寝てもらおうのではなく、ソファでくつろいでいただいたり、ティータイム等の時間を設けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋一覧表を作成しており、服薬の変更時や受診時には毎回職員が記入し、全職員が目を通すようにしている。 副作用等がみられた際には、病院受診や連絡調整を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様に応じた役割、楽しみ（カラオケ、園芸、工作、家事等）をもっていただけるよう支援している。また、昔の経験を活かし茶摘みや干し柿作ったりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者様の希望や体調、天候に合わせて外出支援を行っている。自宅の近所のコスモス畑や思い入れのある神社にドライブにでかけたり、その他、花見や紅葉、初詣等季節を感じる外出も行っている。	
			(外部評価) 玄関先の広い庭は外気浴には最適な場所で、散歩や買い物など日常的な外出を支援している。特に事業所周辺の散歩は、利用者が自然豊かな季節の移り変わりを感じることができる。利用者の希望を取り入れながら、家族にも参加してもらえるよう外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 1人ひとりが買い物バッグを持っており、受診の帰りにスーパーに寄ったり、自動販売機でジュースを買ったり等している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人様の希望に応じて電話をかけたり、手紙の用意を行っている。暑中見舞いや年賀状を送ったりもしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 花や作品等を展示し季節感を味わえるようにしている。リビングでは浪曲や演歌を流すことで、話しのネタになったり、歌を口ずさまれたりと共用空間の雰囲気づくりが行えている。</p> <p>(外部評価) 居間にはソファやダイニングテーブルがゆったりと配置され、車いすの利用者でも移動しやすいように広々とした空間が保たれている。広い窓からは自然な光が差し込み、壁にはお正月の書初めやちぎり絵、写真などが飾られている。利用者が居心地よく安心して過ごせる空間づくりがなされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングには数人で座れるソファやリクライニングチェア等を置いて、1人ひとりが自由に過ごせる場所の配慮をしている。リビングの横には和室もあり、横になりながら</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使われていた家具や思い出の品、ご家族様の写真等を飾られている。 荷物の運搬が困難な方は、こちらから出向きお手伝いをさせていただいている。</p> <p>(外部評価) ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けとなっている。利用者の使い慣れたタンスやテレビなど好みのものが持ち込まれ、家族写真を飾ったり利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手摺り、車いす対応トイレ等により自立に向けた生活が送れるよう支援している。 居室やトイレには分かりやすいような表示もしている。</p>	